

# 北見工業大学学報

第 303 号 (2021 年 1 月号)

## 目 次

年 頭 挨 拶	令和 3 年学長年頭挨拶……………	2
入 試	令和 3 年度編入学試験の実施……………	5
	令和 3 年度学校推薦型選抜・特別入試(帰国子女入試)の実施……………	6
	令和 3 年度大学入学共通テストの実施……………	6
	2021 年度ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入試の実施……………	7
研 究 助 成	令和 2 年度外部資金の受入状況……………	8
受 賞	本学大学院生が日本セラミックス協会東北北海道支部 研究発表会優秀発表賞を受賞……………	9
	本学大学院生が日本セラミックス協会東北北海道支部 第 28 回北海道地区セミナーで優秀発表賞を受賞……………	10
	本学大学院生らが 2020 年度 JC-IGS 論文賞ならびに JC-IGS 論文奨励賞を受賞……………	11
諸 報	メッセナゴヤ 2020 オンラインに出展……………	12
	災害復旧用特殊機械の研究開発に関する五者連携協定を締結……………	13
	就職活動支援セミナー「働くとはどういうことか」を開催……………	14
	インターナショナル C アワー ～新カーリングホールの特徴を満喫しよう～を開催……………	15
	2020 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に出展……………	16
	札幌市建設局と防災・減災に関する包括連携協定を締結……………	17
	「ネイパル de サイエンス」に協力……………	18
引用文献データベース Scopus 説明会及び KIT-R 説明会を開催……………	19	
日 誌	12 月・1 月……………	20

## = 年頭挨拶 =

### 令和3年学長年頭挨拶

明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、教職員の皆様へ新年の御挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年ではなかったでしょうか。感染症のパンデミックは、これまでも世界の歴史に大きな影響を与えてきましたが、COVID-19も例外ではなく、国際社会の分断を招き、本邦においても緊急事態宣言が発令される事態となり、教育界、経済界をはじめ国民全体の日常生活に多大な影響を及ぼしました。

本学においては、令和2年2月下旬に対策会議を立ち上げ、全学的な体制整備を行いました。同年4月には本学の行動指針（BCP）を策定し、緊急事態宣言下における在宅勤務の実施や宣言解除に伴う対策の緩和等、日々移り変わる状況に応じた対応を現在も継続しているところであります。

学生に対しては、令和2年度前期は全ての授業を、後期は大部分の授業をオンラインで実施せざるを得ない状況となり、教職員の皆様には大変な負担をお掛けいたしました。現在のところ、大きな支障もなく授業を実施できており、皆様には改めて感謝申し上げます。やむなく実施することとなったオンライン授業ですが、今後はオンラインの特性を活かした学習効果の高い授業の開発を目指しながら、対面授業との併用を検討していきたいと思っております。

一方、明るい話題としては、令和2年10月31日に、通年型のカーリングホールとして「アルゴグラフィックス北見カーリングホール」がオープンしました。当施設には、本学の冬季スポーツ科学研究成果による競技力向上支援システムを導入しており、カーリングに係る学術研究の推進が益々期待

されます。このオープンに合わせ、同年10月24日に北見市・本学・北海道新聞北見支社の主催で、「アルゴグラフィックス北見カーリングホールオープン記念フォーラム」を開催、さらに、11月1日に冬季スポーツ科学研究推進センターが「冬季スポーツ科学シンポジウム2020」を開催し、いずれも大盛況のうちに終了しました。

また昨年、北見工業大学は創立60周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、令和2年9月に予定しておりました記念式典等の行事の開催は見送ることといたしました。当初の計画どおり、キャンパス整備事業として、五島慶太氏の胸像移設、屋外時計設置の工事を行いました。また、創立60周年記念誌につきましては、現在、編集作業を進めているところであります。さらに、経済的理由により修学が困難な学生への支援を目的として平成28年に創設した「北見工業大学修学支援基金」について、創立60周年の節目にあたり学生支援体制をより強化するため、修学支援基金への募金の御協力をお願いしました。11月末現在で個人の方から延べ241件、約1,100万円、企業様から延べ116件、約3,100万円、合計357件、約4,200万円のご寄附をいただきました。教職員の皆様からも多数の御寄附をいただいております。厚く御礼申し上げます。

さて、本学と帯広畜産大学、並びに小樽商科大学との三大学連携による法人経営統合まで、残すところ1年3ヶ月となりました。教職員の皆様には、ワーキンググループにおける議論や作業など、本取組の着実な進捗に御理解と御協力をいただいております。また、この国立大学経営改革促進事業については、昨年度、改めて高度

化分が採択され、法人経営統合に向けた取組が、より一層加速されている状況です。事業の採択に当たり、本学が中心となっている「オープン・イノベーションセンター」に関する取組についても高い評価をいただいております。私たちの取組が全国のモデルケースとなっております。本年は法人経営統合に向けての総仕上げの年となります。引き続き御協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年度予算につきましては、令和2年12月21日に閣議決定が行われ、運営費交付金の全体額は前年度比17億円減の1兆790億円が確保されました。評価分を含めた個別の大学毎の予算額は、1月下旬頃に示される予定となっております。なお、令和3年度概算要求「基盤的設備等整備分」として、本学が要求しておりました「世界標準のアルペンスキートレーニング等環境の整備に不可欠な人工造雪システム」につきましては、前倒しで令和2年度補正予算にて採択されております。

施設整備関係では、施設整備費補助金により平成28年度より4期に渡る構内道路等整備、及び社会連携推進センター低温室の特殊空調設備改修を実施したところです。今後、空調設備のない講義室、事務局を対象に新たに空調設備を設置する予定としております。

学術・研究面では、北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センター(CAFFÈ)において、令和2年4月1日より環境大善株式会社との共同研究講座を設置しました。本講座での共同研究は、中小企業庁が行う「戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)」の採択を受けるなど、高い評価を受けております。また、新型コロナウイルス対策研究においても、近未来保健情報技術特区開拓ユニット(PURSUIT-h)の研究グループが、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の

「ウイルス等感染症対策技術開発事業」に採択、さらに国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター(JST-RISTEX)の「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)への包括的実践研究開発プログラム」の分担研究者に参画するなど、新型コロナウイルス対策の切り札になる研究成果が期待されております。

学生支援においては、私が学長候補対象者の所信として表明しておりました、学年進行も含めた進学支援と就職支援を統合したキャリアアップ支援センターを令和2年4月に立ち上げ、進路・就職に関する相談体制を整備しました。出席状況が芳しくない学生に対して、進路選択支援室員と個別担任が連携して呼び出し型個別相談を実施し、留年や中途退学の予防につなげるための取り組みを行っております。また、図書館に来館できない学生に対する学習支援サービスとして、電子ブック資料の拡充、図書館活用法・文献探索入門のe-learningコンテンツの制作についても実施しているところです。

工学部の令和3年度入学者選抜では、新たに導入した総合型選抜を令和2年10月に実施し、コース確定枠と冬季スポーツ枠には、特に多くの志願がありました。同年12月に実施した学校推薦型選抜とともに、皆様の御協力をいただき、無事に終了することが出来ましたことに、心より御礼申し上げます。さらに今月は、初めての大学入学共通テストを控えており、16、17日に予定されている第一日程のほか、高等学校などにおける学習の遅れに配慮した第二日程も30、31日に予定されているところです。また、3月12日に実施予定の一般選抜後期日程の個別学力検査につきましては、教職員の派遣規模を縮小した形で、例年通り東京、大阪を学外会場といたします。

最後となりますが、皆様が御家族ともども、この1年間を心身ともに健やかに暮ら

せる年でありますことを心から祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

学長 鈴木 聡一郎

## = 入試 =

### 令和3年度編入学試験の実施

(入試課)

令和3年度編入学試験を実施し、12月16日(水)に合格発表を行いました。合格者数等については下表のとおりです。

#### 第1次募集

学 科	学力試験入試			
	募集人員	志願者	受験者	合格者
地球環境工学科	若干人	9	4	3
地域未来デザイン工学科		9	3	1
合 計		18	7	4

#### 第2次募集

学 科	推薦入試				学力試験入試			
	募集人員	志願者	受験者	合格者	募集人員	志願者	受験者	合格者
地球環境工学科	若干人	2	2	2	若干人	4	4	3
地域未来デザイン工学科		1	1	1		6	5	3
合 計		3	3	3		10	9	6

## 令和3年度学校推薦型選抜・特別入試（帰国子女入試）の実施

（入試課）

12月4日（金）、令和3年度学校推薦型選抜・特別入試（帰国子女入試）を実施し、12月16日（水）に合格発表を行いました。両学科の合格者数等については下表のとおりです。

### 学校推薦型選抜

学 科	募集人員	志願者	受験者	合格者
地球環境工学科	48	58	58	48
地域未来デザイン工学科	55	88	87	58
合 計	103	146	145	106

### 特別入試（帰国子女入試）

学 科	募集人員	志願者	受験者	合格者
地球環境工学科	若干人	1	1	0
地域未来デザイン工学科		0	0	0
合 計		1	1	0

## 令和3年度大学入学共通テストの実施

（入試課）

令和3年度大学入学共通テストの第1日程が1月16日（土）、17日（日）の両日に実施されました。本学会場の志願者数は638人となりました。1月30日（土）、31日（日）には第2日程も実施されました。

## 2021年度ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入試の実施

(入試課)

2021年度ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入試を実施し、1月21日(木)に合格発表を行いました。両学科の合格者数等については下表のとおりです。

学 科	募集人員	志願者	合格者
地球環境工学科	若干人	0	0
地域未来デザイン工学科		3	1
合 計		3	1

= 研究助成 =

令和 2 年度外部資金の受入状況

(研究協力課)

	令和 3 年 1 月 31 日 までの合計		前号までの合計		令和 2 年度累計	
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)
共同研究	6	4,831	112	97,826 (※1)	118	102,657
受託研究	4	36,949	13	105,450 (※2)	17	142,399
奨学寄附金	8	6,646	58	43,870	66	50,516

(※1) 変更契約反映のため 1,100 千円減

(※2) 変更契約反映のため 8,845 千円増



## = 受賞 =

### 本学大学院生が日本セラミックス協会東北北海道支部 研究発表会優秀発表賞を受賞

(マテリアル工学専攻)

このたび、本学大学院生の岩瀬琴乃さん  
(博士前期課程 マテリアル工学専攻 2年、  
指導教員：大野智也教授) が令和2年度 日  
本セラミックス協会 東北北海道支部研究  
発表会において、優秀発表賞を受賞しまし  
た。

11月13日(金)～14日(土)にオンラ  
インで開催された本研究発表会において、  
岩瀬さんは「ゾル中のセラミックス触媒粒  
子と導電助材粒子の粒径比による凝集・分

散制御の最適条件の検討」という題目で発  
表しました。

この発表は、次世代の電池として研究が  
進んでいる金属空気電池の空気極開発に関  
するもので、金属空気電池の実用化に向け  
て意義がある研究成果として評価されまし  
た。また、前年度の粉体工学会春季研究発  
表会にて受賞した研究内容を大幅に拡張し、  
空気極設計に関する指針を示した事が高く  
評価され、今回の受賞に至りました。



受賞した岩瀬さん

## 本学大学院生が日本セラミックス協会東北北海道支部 第 28 回北海道地区セミナーで優秀発表賞を受賞

(マテリアル工学専攻)

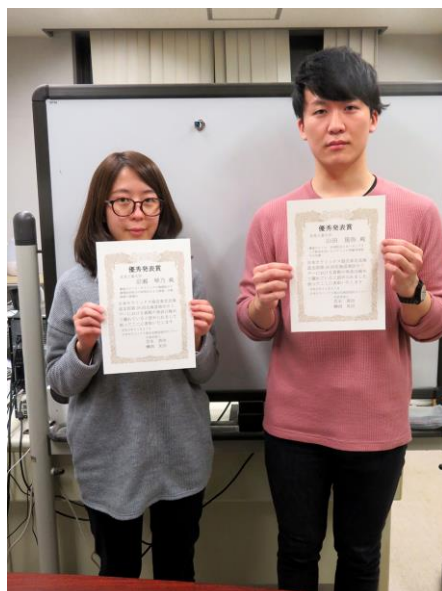
このたび、本学大学院生の山田篤弥さん（博士前期課程 マテリアル工学専攻 1 年）と、岩瀬琴乃さん（博士前期課程 マテリアル工学専攻 2 年、ともに指導教員：大野智也教授）が、令和 2 年度日本セラミックス協会東北北海道支部第 28 回北海道地区セミナーにおいて、優秀発表賞を受賞しました。

11 月 27 日（金）にオンラインで開催された本セミナーにおいて、山田さんは「貝殻粉末とカーボンブラック粉末を用いたコアシェル型融雪剤粒子の作製」、岩瀬さんは「セラミックス触媒粒子と導電助材粒子の粒径比による凝集・分散制御の最適化」という題目で発表しました。

山田さんの発表は、ホタテ貝殻粉末とカ

ーボンブラック粒子を転動造粒法により複合化することで、黒色の酸土矯正剤を作製するための研究発表であり、常呂町産業振興公社および日本甜菜製糖株式会社・美幌製糖所との共同研究の成果です。この発表は、道東地区の未利用資源の有効活用に関するものであり、実用研究として高く評価されました。

岩瀬さんの発表は、金属空気電池の空気極を作製する際の微構造制御に関する研究発表であり、現在一般的に普及しているリチウムイオン電池以上のエネルギー密度が期待できる金属空気電池の開発に関するもので、基礎研究として高く評価され、今回の受賞となりました。



(左から) 受賞した岩瀬さんと山田さん

## 本学大学院生らが2020年度JC-IGS論文賞ならびに JC-IGS論文奨励賞を受賞

(寒冷地・環境・エネルギー工学専攻)  
(社会環境工学専攻)

12月10日(木)、オンラインで開催された第35回ジオシンセティックスシンポジウムにおいて、本学大学院博士後期課程寒冷地・環境・エネルギー工学専攻の劉爽さん(3年、凍土・土質研究室、主指導教員：川口貴之教授)と小笠原明信さん(2年、地盤防災技術研究室、主指導教員：川尻峻三准教授)が、国際ジオシンセティクス学会(IGS)日本支部より2020年度JC-IGS論文賞を受賞しました。また同シンポジウムにおいて、博士前期課程社会環境工学専攻2年の平井泰輔さん(凍土・土質研究室、指導教員：川口貴之教授)が2020年度JC-IGS論文奨励賞を受賞しました。

IGS日本支部では、学会活動をより活性化するために、ジオシンセティックスシンポジウムの開催、ジオシンセティックス論文集の作成を行っています。JC-IGS論文賞は、この論文集に掲載されたものの中から、ジオシンセティックスに関する学術および技術の進展に顕著な貢献をしたと認められる論文の著者に授与されるもので、JC-IGS論文奨励賞は、将来、学術および技術の進展の貢献が期待される論文の著者に授与さ

れるものです。

劉さんと小笠原さんの受賞論文タイトルは「ジオセルとジオグリッドを併用した補強土壁の凍結指数に応じた壁面材厚に関する検討」であり、補強土壁を構築する地域の凍結指数に応じた最大凍結深さが、補強材にまで達しないための壁面材厚(ジオセルの数)について提案したものです。

また、平井さんの受賞論文タイトルは「ジオセルと排水パイプを併用した斜面安定工の排水メカニズムに関する模型実験」で、模型盛土に対する散水試験を実施し、ジオセル層の役割やパイプから排水するメカニズムやその条件について明らかにしました。

両論文とも、本学教員と大学院生、修了生に加え、共同研究を行っている岡三リビック株式会社と東京インキ株式会社の担当者が共著したものです。

本学と岡三リビック株式会社、東京インキ株式会社は、2012年度から共同研究を始めており、これからも協力し合いながら早期の社会実装を見据えた今後の防災対策に資する研究成果を発信し続ける予定です。



劉さんと小笠原さんのオンライン授与の様子



平井さんのオンライン授与の様子

## = 諸報 =

# メッセナゴヤ 2020 オンラインに出展

(社会連携推進センター)

11月16日(月)～12月11日(金)にメッセナゴヤ 2020 オンラインが開催されました。

本展示会は中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のものづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会です。本年度は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、メッセナゴヤ特設 Web サイトによるオンラインでの開催となりました。1,400 を超える企業・団体が出展し、来場登録者数は9,666 人でした。

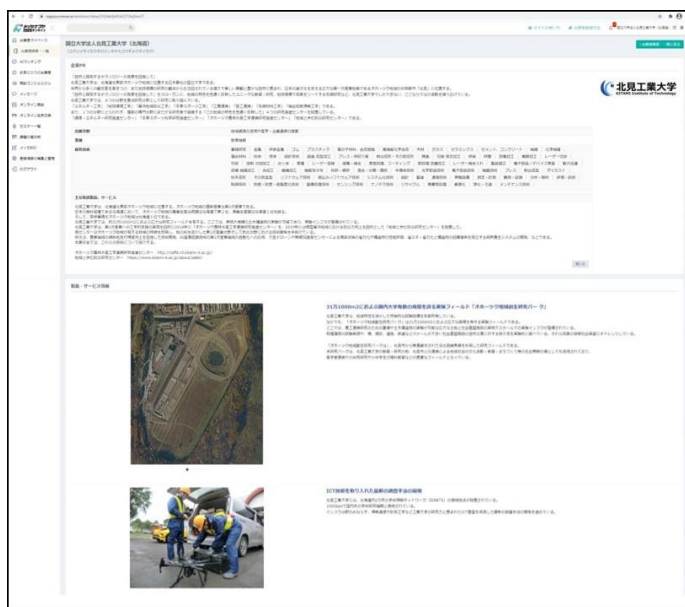
北海道庁では、中京圏市場に対し北海道内企業や学術機関の高度な技術・製品等のアピールを目的として、毎年メッセナゴヤ

に北海道ブースを設けています。この中で、本学は「北海道オホーツク地域の地の利を活かした第1次産業、防災分野における技術開発」をテーマに、農業機械の傾斜他走行精度向上を目指した技術開発、AI 画像認識技術の第1次産業機械の自動化への応用、大型ドローンや無線加速度センサーに要る橋梁点検の省力化や構造物の性能評価、省エネ・省力化と構造物の品質確保などに取り組む技術を紹介しました。

本学の出展ページには103人のアクセスがあり、多くの方々に本学の活動を知っていただく貴重な場のひとつとなりました。



メッセナゴヤ 2020  
オンラインリーフレット



本学出展Webページ

## 災害復旧用特殊機械の研究開発に関する五者連携協定を締結

(地域と歩む防災研究センター)

11月26日(木)、むかわ町の産業会館にて、地域と歩む防災研究センター(以下SAFER)と、苫小牧工業高等専門学校地域共同研究センター、株式会社とませい、合同会社MDino及びむかわ町の5者にて「災害復旧用特殊機械の研究開発に関する五者連携協定」を締結しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、SAFERは同日に行われた調印式にオンラインで参加しました。

本協定は、令和元年12月26日にSAFERとむかわ町の間で締結した「北海道胆振東部地震の災害復興に関する包括連携協定」の延長線上に位置し、平成30年9月6日の北海道胆振東部地震での被災経験から得た

知見を最大限に活かして、災害復旧用特殊機械の実用化を図り、今後、全国各地で起こりうる自然災害の応急・復旧の一助を担うことを目的としています。

今後は、被災地域の特性や土砂搬出に関する研究を担当するSAFERと、特殊コンクリートポンプの特許技術を保有する株式会社とませい、汚泥対策に関する研究を担当する苫小牧工業高等専門学校の3者にて研究開発を行い、むかわ町が国や他自治体、関係機関への周知、合同会社MDinoが商品化後の販売業務を担当し、各機関が相互に連携・協力を図り、災害復旧用の特殊機械製品化を目指していきます。



関係者全員による記念写真



北見工業大会場よりオンラインにて参加する川尻峻三センター長(右)、川口貴之副センター長(左)

## 就職活動支援セミナー「働くとはどういうことか」を開催

(機械電気系)

11月26日(木)、就職活動支援セミナー「働くとはどういうことか」をオンラインで開催しました。就職活動とその支援には様々なシステムがあるため、就活生はその仕組みを学ばなければなりません。その活用が本格化する前に、「働くとはどういうことか」「なぜ働くのか/何のために働くか」を考える本セミナーは、機械電気系の早川吉彦准教授企画の元、進行はジョブカフェ北見の木村恵美氏に担当していただきました。

最初に、本学卒業生でAIエンジニアの千葉優輝氏から「働くとはどういうことか」と題した講演がありました。千葉氏は、渋谷を拠点とする人工知能スタートアップ企業、KICONIA WORKS社にAIエンジニアとして参画している自身の経験から、会社組織の中で企業、個人、そして社会の価値を創造していく姿勢・方法について示唆に富んだ話をしてくださいました。続いて、京セラ株式会社 稲垣正祥上席執行役員・研究開発本

部長から「なんで働くのか?それは楽しいからさ」と題し、危機を迎えたときの頑張りや、仲間とともに働く仕事におけるポリシーとその価値について、最近発表したコンセプトカーの話も交えて講演いただきました。

最後には、座談会「講演を聴いて」を行い、北海道新聞北見支社記者 本郷由美子氏に司会を務めていただきました。千葉、稲垣両氏に加えて、梅孝義氏(京セラ株式会社 北海道北見工場長)、岩田泰氏(リコー IT ソリューションズ株式会社 北見事業所責任者)、小野貴史氏(日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社)、及び飯野健広さん(地域未来デザイン工学科4年、ギタリスト)が参加しました。年月を重ねリーダーとして働いている方々と気鋭の若者たちの言葉が、60人を超える参加学生たちに「働くことの価値」を考えるきっかけを与えたようです。



千葉氏のプレゼンテーションから

北見工業大学生向け就職活動支援セミナー



稲垣氏のプレゼンテーションから

## インターナショナルCアワー ～新カーリングホールの特徴を満喫しよう～を開催

(国際交流センター)

12月3日(木)、「新カーリングホールの特徴を満喫しよう!」をテーマに留学生限定のインターナショナルCアワーを開催しました。

オープンしたばかりのアルゴグラフィックス北見カーリングホールにて、9人の留学生(タイ、タンザニア、中国、トルコ、ポーランド、モンゴル)が参加し、車いすカーリングチーム「北見フリーグス」の皆様にもご協力いただきました。

新しい建物の香りが漂う館内で体調チェックを行い、カーリングホールを見渡せる会議室で動画を見ながらカーリングの知識を得ました。その後、準備体操の際には留学生達が各国の言葉で数字を数えて盛り上がりました。

日本に来たばかりの博士前期課程1年パティッター スティージャールワットさん(タイ)は、氷の上を歩くことも初めてで「難しいけれどおもしろいですね。」と楽しんでいました。以前にカーリングを行ったことのある留学生達は“車いすカーリング”

に興味津々の様子で、博士後期課程3年バクダー アリさん(トルコ)は「私は体が硬くて、ストーンを投げる時に膝を打ってしまうことが多いので、このようにキューを使ってストーンを投げるほうが楽しめますね。」と言いながら、北見フリーグスの皆様と試合を満喫していました。

施設見学なども行い、あっという間の2時間が過ぎました。北見在住5年目になる博士前期課程1年リ シチョウさん(中国)は「以前にもカーリングを行ったことはあったけれど今回はとても貴重な機会勉強になった。言葉のハンディ、身体のハンディ等いろいろ考えさせられた。コロナが落ち着いたら、車いすカーラーの皆さんと10エンドぐらい試合をしてみたい!」と熱く語っていました。

大学の近くにできた通年使用のカーリングホールは、留学生にとっても新たな交流の場となることを体験できたCアワーとなりました。



準備体操の様子



車いすで挑戦する留学生



記念撮影

## 2020 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に出展

(社会連携推進センター)

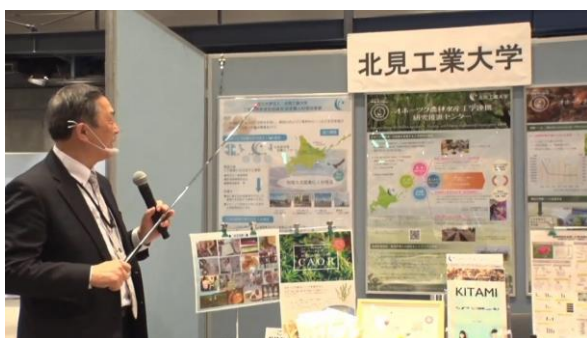
12月4日(金)～10日(木)の7日間、農林水産省とNPO法人グリーンテクノバンクが主催する「2020 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido-北海道の食と農の明日へ-」がオンラインで開催されました。

本年度は新型コロナウイルス感染症を考慮し、11月20日(金)にサッポロファクトリーホールからライブ配信を行うと同時に動画撮影も行い、その様子が12月の開催期間中に動画サイトで配信されるという形となりました。

本学からは有田敏彦教授、金澤勉特任講師が参加し、北見工業大学のスローガンで

ある「自然と調和するテクノロジーの発展を目指して」をテーマに、本学のオホーツク農林水産工学連携研究推進センターが取り組む、第1次産業への工学の貢献を目的とした教育・研究の紹介を行いました。また、地域資源を活用した高付加価値商品の開発、それら商品の活用による市内事業所の売上拡大と雇用創出への支援の取り組みについても紹介しました。

例年とは異なる形での開催となりましたが、動画配信によってより多くの方々に本学の活動を知っていただける貴重な場となりました。



ライブ配信で説明を行う有田教授



本学ブースの様子



## 札幌市建設局と防災・減災に関する包括連携協定を締結

(地域と歩む防災研究センター)

12月17日(木)、地域と歩む防災研究センター(以下SAFER、川尻峻三センター長)と札幌市建設局(小林安樹局長)は、防災・減災に関する包括連携協定を締結しました。同日に本学で行われた調印式には、札幌市建設局から櫻井英文市街地復旧推進室長が代理出席されました。

この協定は、積雪寒冷地の都市部における防災・減災への取り組みをより強固なものとするため、連携協力体制を構築し、研究・開発による防災力向上と、それに質する人材育成等に取り組み、自然災害に強く安全・安心な札幌市を創出することを目的としています。

さらに、本連携で得られた成果については、札幌市のみならず北海道全体での積雪寒冷地の都市部における防災・減災への取り組みに広く反映させることを目指しています。

札幌市建設局とSAFERは平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震の直後から、被災地域の早期復旧に向けた地盤調査や対策工の検討など相互に協力を重ね、密接な関係を築いてきました。

今回の協定では、これまでの取り組みと協力体制をより強固かつ継続的なものへと発展させることが期待されており、今後の取り組みに注目が寄せられています。



櫻井市街地復旧推進室長(左)と  
川尻センター長(右)



関係者による記念写真

## 「ネイパル de サイエンス」に協力

(研究協力課)

12月20日(日)、北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見が主催するアクティブラーニング事業「ネイパル de サイエンス」において、応用化学系の岡崎文准教授が講師となり、小学4～6年生の参加者20人へ実験を通して科学の面白さを伝えました。

この地域貢献活動は、岡崎准教授が委員長を務めるオホーツク地域エネルギー環境教育研究会(略称OE<sup>3</sup>:オーイーキュービック)による教育活動の一環で、青少年に科学やエネルギー、環境問題などへの興味を持ってもらうことを目的としたものです。

実験は液体窒素を使った内容で、参加者

はマスクと実験用ゴーグルをつけ、4～5人ごとのグループに分かれて行き、超低温まで冷やしたものがどうなるのかを観察しました。中でもお湯と液体窒素を使って急激な温度変化により雲を作る実験では、実験装置から立ち上る雲に参加者たちは驚いていました。

現在、本学では新型コロナウイルスの影響で地域貢献活動等を大幅に縮小せざるを得ない状況ですが、様々な対策をとったうえで、引き続き科学やものづくりの面白さについて次代を担う子どもたちへ伝えていきたいと考えています。



参加者から距離を取って実験の説明を行う  
岡崎准教授(中央奥)



お湯と液体窒素で雲を作る実験

## 引用文献データベース Scopus 説明会及び KIT-R 説明会を開催

(情報図書課)

12月22日(火)、引用文献データベース Scopus 説明会及びKIT-R (キットアール) 説明会を開催しました。

Scopus 説明会では、エルゼビア社の講師・井上淳也氏と大学を Zoom で繋いで行われ、世界最大級の抄録・引用文献データベースである Scopus を使用して、影響力のある文献や、研究のトレンドなどを調べる方法をレクチャーしていただきました。参加

者は教職員・学生合せて11人となりました。

Scopus 説明会の後には、引き続き大学機関リポジトリ KIT-R 説明会を開催しました。栗田とも子係長(目録管理担当)が、本学の機関リポジトリ KIT-R の紹介と、研究成果を外部公開することによるメリットを説明し、参加者へ研究成果の提出を呼びかけました。



KIT-R 説明会を行う栗田係長

## = 日誌 =

### 12 月

- 1日 研究支援室会議（書面審議）、進路選択ガイダンス、入学試験実施委員会
- 2日 経営改革推進会議、リカレント教育支援室会議、アドミッションセンター運営会議
- 4日 学校推薦型選抜、特別入試（帰国子女入試）
- 8日 教務委員会、進路選択ガイダンス
- 9日 マナーガイダンス（～28日）
- 10日 教育研究評議会
- 11日 地域連携・国際交流委員会（書面審議）
- 14日 広報委員会、学生委員会、内定者のための労働法と税のセミナー（～28日）、アドミッションセンター運営会議
- 15日 進路選択ガイダンス、入学者選抜委員会
- 16日 学校推薦型選抜・特別入試（帰国子女入試）  
・編入学試験（第2次募集）合格発表
- 17日 発明審査委員会
- 19日 教員免許状更新講習（～20日）
- 22日 SPI対策模擬試験受検会、引用文献データベースScopus説明会及びKIT-R説明会
- 24日 就職内定者向けセミナー
- 25日 教員免許状更新講習（～27日）

### 1 月

- 7日 教務委員会
- 13日 教育研究評議会、入学者選抜委員会
- 14日 発明審査委員会
- 15日 地域連携・国際交流委員会（書面審議）
- 16日 大学入学共通テスト第1日程（～17日）
- 18日 面接対策講座（～19日）、学校推薦型選抜・  
総合型選抜入学手続き（～22日）、私費外国人留学生入試・大学院入試（第2回募集）  
出願受付（～22日）
- 22日 研究支援室会議（書面審議）、学術推進機構統括会議（書面審議）
- 25日 一般選拔出願受付（～2月5日）
- 27日 役員会、教育改善推進室会議
- 28日 ホームページ専門委員会、アドミッションセンター運営会議
- 30日 大学入学共通テスト第2日程（～31日）